

## 今年1年の活動を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 真能 早也花

活動先：NPO 法人 地域福祉サポートちた

クラス：野尻 紀恵 先生

私はサービスマーケティングの活動を通して、多くの力をつけることが出来た。

まず事前のバスツアーでは NPO を知ることが出来た。私は活動を行うまで、NPO を言葉で聞いたことがあっても実際にどのような活動を行っているのか知らなかった。だがこのバスツアーを通し、どのような活動を行っているのか知ることが出来た。またバスツアーで周った NPO 全てが誰でも楽しいと思えるような空間をつくっていると感じた。訪問した NPO 全てで利用者が職員も笑顔だったのが印象的だった。また NPO はボランティアではなく、地域・市民性にあると学んだ。福祉の根底には地域があることを学んだ。

事前の準備段階では「中間支援組織」を知ることから始まった。「中間支援組織」が NPO 同士、地域と NPO をつなぐ役割を行っていることが分かった。しかし、「中間支援組織」という言葉を意識してしまい、計画を立てることが難しかった。また自分も活動先も望んでいる事を形にすることはとても難しかった。だが、この経験をしたおかげで普段から相手のことも考えて行動できるようになった。また、地域の方が困っていることや地域で問題になっていることを知るには、実際に現場を見に行くことが必要だと学んだ。さらに活動先にアポをとったり、確認の電話など自分たちでやらなければいけなかったもので、その方法も学ぶことが出来た。これは実習や社会に出てからも役に立つだろう。

活動の最終目的に「自分たちで考えた居場所の実践」を掲げ、それに向かい活動を行ってきた。まずは自分たちの居場所の定義を考えるためバスツアーに参加したり、名古屋の NPO を訪問した。その後、実践をする上での準備を行い、最終的に実践を行った。この活動の中で一番成長したのは考え方である。授業の初めの頃はどこかまだ自分の中で「困ったら誰かがやってくれる」という気持ちがあったが、いざ活動が始まってみたら自分たち主体で「自分たちが何とかしなければいけない」という気持ちが強くなった。それと同時に、声を上げることの大切さを学んだ。この部分は、活動中自分が一番大変だった部分で自分の気持ちをなかなか相手にぶつけることが出来ず、時間が流れてしまうこともあった。だが、活動先の方に「自分の気持ちを忘れずに行動していくこと」というアドバイスをもらい、自分の気持ちを相手にぶつけられるようになっていった。自分の気持ちや考えを伝えることで、時には相手の心を動かすことが出来る。この経験をこれから先の生活に活かしていきたい。さらに経験することの大切さも同時に学んだ。人から話を聞くだけでは感じる事の出来ないその場の雰囲気、現在起こっている問題が分かる。実際に自分たちで居場所づくりの実践を行った時に感じた。今までは用意されている活動にお客さんのように参加していた。だが、今回主催者側にまわったことで準備することの大変さを学んだ。

最初にどのような目的でこのイベントを開くのか、人数、場所などの細かい詳細、人集めでは大学も夏休みだったこともあり、どのようにイベントを知ってもらうのか、どのように参加者を募るのかなど、考える点は沢山あった。実践を行うまでは大変だったが、自分が主催者側にまわるまでは知らなかったことばかりだった。自分が思っていたような実践は出来なかったが、参加してくれた方が笑顔で楽しそうに参加している様子を見て、ものすごく達成感に満ち溢れた。主催者側をやってみたことで辛いことや悩んだこともあったが、楽しかったことや改めて確認できたことが沢山あったので良かった。これからはお客さんではなく、進んで参加していきたい。

活動後は振り返りと報告会に向けての準備を行った。活動を終え、活動を振り返ってみると自分から積極的に動くことが出来なかった。活動先の方に言われてからしか動けないことが多く、企画が進まなかった。しかし、活動先の活動に参加していく中で、自分の考えの甘さに気付かされた。そこからは活動以外にも連絡を取るようになり、「居場所づくり」を進めていったのである。また振り返りでクラスメンバーや先生の意見が聞け、様々な考えが出来るようになった。自分たちだけではなく、客観的な意見を聞くことも大切なことだ。また報告会では、活動中に学んだ自分の気持ちを相手に伝えることが活かせたのでよかった。

全体を通して学んだことは「つながることの大切さ」である。活動前に中間支援組織について調べていることがあった。その時に知多地域の NPO は人と人とのつながり、関わりから今の地域のつながりがあることを知った。実際に現場にいると、県職員二年目の方や、インターシップの方とも関わる事が出来た。福祉関係だけではなく、色々な年代、色々な職種と関わりを大切にすることで、福祉だけに偏った考え方にならないのだろうと気付かされた。バスツアーで共通して感じたことは、どの NPO でも関わり、つながりを大切にし、困った時はお互い様の精神をもっているように感じた。そのため地産地消のように、まずは地域の中から発掘していくことが出来ると感じた。これからは、サービスマンで学んだことを忘れずに生活していきたい。

私がサービスマンの活動を通して感じた問題は NPO の認知度である。実際に私もサービスマンで活動を行う前は、NPO について言葉は聞いたことはあったが、実際に活動内容などは知らなかった。私のように福祉を学んでいる人でも具体的に知っている人は少ない。だから NPO の活動をテレビや新聞などで取り上げるべきだと私は考える。さらにサービスマンで活動を行った学生が、NPO について紹介することも大切なことだと私は考える。NPO に興味を持っていても、関わる機会が少ない。学生と NPO が関わられるようにサービスマン以外にも機会をつくるのが良いと感じる。今は地域との関わりが薄くなってきている。地域と助け合いをしなくても生きられるようになっている。だが実際には、独居老人や孤独死、児童虐待など関わりがなくなって増えてきたものが沢山ある。このような問題を少なくするためにも私は NPO との関わりが必要であると考えている。